

桜の蕾もふっくらと色付き、春の深まりを感じる季節となりました。

本日は、平野学長を始め、諸先生方にご臨席賜り、私たちのために心のこもった式典を挙行していただき、別科助産専攻修了生一同心より御礼申し上げます。

一年前の春、私たちは助産師への憧れと強い志を胸に、別科助産専攻の第6期生として入学致しました。本日、再び修了生として一人も欠けることなく参列できることを大変うれしく思います。年齢や経歴も異なり、初めは共に緊張していた私達ですが、助産師の道を志した理由や相手が抱えている思い等を互いに知り、講義内のグループワークで意見交換を行っていく中で、絆が日に日に強くなっていたのを覚えています。私達学生の中には、新型コロナウイルスの影響で看護学生時代に思うように実習に行く事が叶わず、実際に妊産褥婦様と触れ合うことができなかった学生もいました。しかし、助産師への志は高く、これまで積み重ねてきた知識を武器に前を向いて一歩ずつ共に歩んできました。本年度は新型コロナウイルスの影響は多少ありましたが、通常に近い形で授業に取り組むことができ、実習すること事ができました。講義や演習では、先生方がこれまでの実践で経験されてきた知識や技術を提供して頂いたことが、私たちには貴重な学びの場となりました。

分娩介助実習では、初めて新生児を取り上げた時の感動、新生児の温かさと共に自分の手の震えを鮮明に覚えています。生命の誕生の瞬間に感動すると共に、2つの命に関わっているという責任の重さを痛感しました。時には自分一人では判断できず、手も出すことができず、自分の不甲斐なさに腹が立ち、涙することもありました。しかし、そのような時、自分一人で抱え込むのではなく、学生同士で共有、共感、支え、励まし合いながら実習を乗り越え、先生方にも温かくご指導して頂きました。また、未熟な私たちを快く受け入れてくださった妊産褥婦さんとそのご家族、そして、丁寧にご指導してくださった実習指導者の皆様に深く感謝申し上げます。

これから私たちは共に学んできた環境から、助産師としてそれぞれ新しい道へと進みます。この先、楽しい事や嬉しい事ばかりではありません。志はあっても、それぞれの道でつまずき、前に進むことができなくなることもあるかもしれません。しかし、その時はこの1年間で出会ってきた方々、そして第6期生の仲間達の事を思い出し、前に進んでいきたいと思います。ここで出会った仲間は私にとって大切な宝物であり、ずっと大切にしていきたいと思います。

本日この晴れの日を迎えることができましたのは、教職員の皆様のお陰だと存じます。別科助産専攻修了生一同、改めて御礼申し上げます。そして、温かく見守り続け支えてくれた家族にも言葉では言い尽くせないほどの感謝でいっぱいです。

最後になりましたが、宮崎県立看護大学の益々のご発展とご指導くださいました先生方の御健康と御活躍ならびに在校生の皆様の一層の御健闘を心からお祈りいたしまして、答辞とさせていただきます。

令和5年3月16日
別科助産専攻修了生代表